

【 第26回男子世界選手権 】

2019年1月10日～1月27日 開催地:ドイツ、デンマーク

試合結果報告 1 月 16 日 (水)

JPN	VS	ISL
12	前半	13
9	後半	12
21	合計	25

個人得点

No.	名前	得点	合計
7	宮崎 大輔	2	2
13	笠原 謙哉	1	1
15	部井久 アダム 勇樹	2	2
16	甲斐 昭人		0
18	成田 幸平	1	1
19	徳田 新之介	3	3
20	渡部 仁	3	3
21	土井 レミイ 杏利		0
24	信太 弘樹		0
25	元木 博紀	1	1
26	久保 侑生		0
27	玉川 裕康	0	0
29	岡元 竜生		0
31	吉野 樹	2	2
33	東江 雄斗	4	4
44	門山 哲也	2	2
			21

戦評

グループB日本の4戦目は、シグルドソン監督の出身国でもあり、オリンピックやヨーロッパ選手権でメダル獲得の実績を持つ強豪国アイスランドとの対戦。約1年前に対戦した時は25対42の17点差で大敗した相手であり、この試合で日本の成長を実証したい一戦である。

日本は成田をトップに据えた5:1と6:0ディフェンスを併用するプランでスタートした。開始早々、渡部の力強いプレーでアイスランドのキープレイヤー4番PALMARSSONを退場させたものの、その直後に日本も退場してしまい、なかなかリズムがつかめず、7分経過時点では2対5とリードを許してしまう。この場面からディスタンスシュートを中心に早打ちで攻めるアイスランドに対し、日本のディフェンスが機能し始め、失点を抑える。その間に門山のディスタンスシュートや吉野のカットインが決まり、28分には一度は逆転に成功する。しかし、テクニカルミスから速攻で22番GUDJONSSONに再逆転シュートを決められ、12対13の1点差で前半を終了した。

後半、成田や宮崎らの速攻で1点差のまま食らいついていたが、速攻の戻りの中で不運にも信太がレッドカードで失格となってしまい、リズムを失っている間に10番SIGURMANNSSONのサイドシュートなどで残り10分には18対21の3点差とされてしまう。しかし、ここで崩れないのが今の日本チーム、東江のゲームメイクから吉野、渡部が2連取し、残り6分には再び1点差に詰め寄った。その後、タイムアウトをとったアイスランドが4番PALMARSSONらで3連取し4点差とされ、その点差のまま21対25でタイムアップとなった。

チャンスでのシュートミスやテクニカルミスからの逆速攻などは悔やまれ、勝てるチャンスがあった試合であった。しかし、スピード抜群で超攻撃型のアイスランドに対し、バックチェックからのディフェンスとGKの連携が機能した上での25失点は評価できる。十分にこの1年間の成長を感じさせる内容であった。

報告記入者 : 舎利弗 学